



つながる

協創自 校
力造主 訓

R7. 9. 26(金) No.12 立野 健一

前期期末テストの結果は？～＋20点の上乗せは？～

学年	中間より上がった (＋20点以上、上乗せ)	一番上がった生徒
1年	25名(5名)	＋56点
2年	32名(9名)	＋87点
3年	63名(18名)	＋119点

※前期期末テスト(国理英社数)の合計点数。

※実技教科は、中間テストでやった教科、期末テストのみでやった教科などバラバラだったため、今回は除く。

※総数は1年192名、2年191名、3年174名。

心が変われば行動が変わる
行動が変われば習慣が変わる
習慣が変われば人格が変わる
人格が変われば運命が変わる
運命が変われば人生が変わる

左の表が、前号でお伝えしていた「＋20点上乗せできた生徒の数」になります。前期の中間テストは、各学年、最初に学習する单元かつ家庭訪問や体育大会等でテスト範囲もそれほど広くなかったため、期末テストと比べると比較的解きやすい問題が多かったと思います。ですから、「期末テストでは＋20点の上乗せを!」と話したものの、正直厳しいだろうと思っていました。予想通り、厳しい結果となりました。

しかし、そんな中でも、各学年で15%くらい中間テストから伸びています。特に3年生は、「＋20点」「中間より上がった生徒」「一番上がった生徒」、どれも一番多く、「受験生としての自覚」が伺えます。

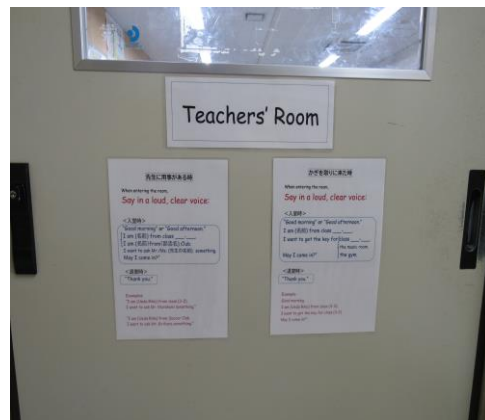
左の言葉はよく学校の中に掲示してある言葉で、みなさんも一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。勉強に対して、「これくらいいいや」「別にしなくてもいいだろう」という思いから、「ちょっとやってみよう」「間違ったところのやり直しをしてみよう」と心(意識)が変わるだけで、その日の家に帰ってから

の時間の使い方(行動)が必ず変わってきます。そんな日を一日、二日…と過ごすうちに、それをやらないと、気が済まないようになります(習慣)。何か一つでも自分の中で「変わったな」「頑張っているな」と思えたら、それが自信となり(一点突破)、他の場面でも「ちょっと頑張ってみようかな」となっていきます。そんな姿を見ている周りの人たちは、「なんかあの人、変わったね」「成長したよね」と感じるようになります(人格)。そうやって日々成長していけば、周りから評価され、信頼され、頼られる存在として集団のリーダーとして活躍したり、重要な役目を果たしたりします(運命)。みんなに認められ、頼られ、必要とされる毎日は非常に充実しており、忙しいけれど「楽しい」と感じることができます(人生)。まずは心(意識)を変えること。それが全てのスタートです。

前期期末テストが終わり、3年生は英検3級合格と県下一斉共通テストに向けて、学習を始めています。毎日、受験用参考書(新研究)に取り組みながら、さらに対策プリントに取り組んでいます。1年生、2年生も期末テストのやり直しや日頃の授業の充実、そして課外活動(部活動やクラブチーム、習い事等)にも全力で取り組んでいることでしょう。7月から始まった中体連駅伝大会に向けた練習も2か月を過ぎ、昨日は1回目の試走も終え、本番に向けた準備も着々と進んでいます。合唱の練習も熱を帯びています。

ほんのちょっとした意識の変化が、毎日のちょっとした取組(行動)の変化になり、後々きっと結果としてあらわれてくることと思います。三中の先生方は、そんな「頑張るあなた」を応援しています。

English street の取組が始まりました～毎週水曜日～



荒尾市教育委員会が掲げた「英語の日常化」に向けた取組の一つとして、「English street」の取組がスタートしました。毎週水曜日、職員室前の廊下から校長室前→職員室前→保健室前までの1階廊下を通る時には、緊急時を除いて英語で会話をする取組です。Hello、good morning、hi、などの挨拶の言葉がほとんどなのですが、「ハイ」という返事の後に、「あ…yes」と言い直す生徒もいて、なかなか面白い取組です。難しいのは職員室への入室。長い文章に生徒たちが手こずり、職員室入り口には長蛇の列…。ただ、英語科の先生方やスカイ先生のご協力のお陰で、職員室の2か所の入り口に、「職員室への入室方法英語版」が掲示されました（一番右の写真）。それを見ながら入室しています（真ん中の写真）。繰り返すことで「～してもいいですか=May I～」などの表現が自然とできるようになるでしょう。

他にも山下先生のお陰で、各教室等の英語での呼び名（ちなみに校長室は **principi's room**）が掲示されています。その呼び名が自然と出てくれば、まさに「英語の日常化」と言えるのでしょうか。

中体連駅伝大会に向けて～10/15 (水) 玉名市横島町周回コース～

7月からスタートした中体連駅伝大会に向けた練習。朝7:15からの練習をメイン練習として、陸上部や参加可能な生徒は夕方にも練習にも励んでいます。暑い夏休み期間も給水しながら、時には少人数教室（常に冷房オン）で休みながら頑張りました。先日の試走でコースの下見も終わり、次回は10/1(水)。入り方やペース配分など、もっと詳しいミーティングのもとに、本番さながらの試走になります。その結果と日頃の練習の様子を総合して、スタッフが選手配置を決めます。他校と戦う前に仲間と競い、登録メンバーを勝ち取らねばなりません。それ以前に、自分自身との戦いに負けるわけにはいきません。苦しくなった時に「あと5mだけ頑張る」、「さらにあと5mだけ」…この繰り返しです。走りながら自分と対話するのは。そうやってチーム内で切磋琢磨していけば、仮にAではなくBだったとしても、仮に走れなかったとしても、仲間をしっかりと応援するいいチームになっていくはずです。本番が楽しみです。



